

10月の果実の見通し

品目	区分	入荷量(t)			単価(円/kg)			山形県産前年実績		コメント
		前年実績	前年比見込(%)	5カ年平均	前年実績	前年比見込(%)	5カ年平均	前年入荷量(t)	前年占有率(%)	
りんご類		9,314	98	8,096	237	106	263	1,733	18.6	青森、長野、山形産中心の入荷となる。全体的に生育が前進しており、9月中旬から長野産中生種の入荷が始まった。価格はほぼ前年並みで推移しているが、前年のように苦しみながらの販売ではなく、比較的動きがみられることから底堅い販売が見込まれる。中生種では品種が多すぎるとの声も聞かれるが、バラエティーに富んだ品ぞろえで消費者には楽しい時期でもある。
なし類 (日本なし、西洋なし)		4,790	下回る	5,303	243	106	245	378	7.9	大分、栃木、山形産中心の入荷となる。9月に残暑がなく、和ナシの販売は向かい風の状況で推移した。10月にも引き続き売りにくい場面が続くと予想される。晩生品種は前年並みの生産量と予想されるが、生育はやや早まっている。10月としては全体的に入荷量が前年を下回り、価格は上回る見込み。
かき類		9,230	92	8,661	229	98	255	201	2.2	和歌山、奈良、福岡産が中心となる。残暑がほとんどなく、着色は順調。入荷量は豊作基調だった前年を下回るが、玉肥大良く不足感はない。早めに価格を下げて量販体制に入ることによって動きを出していきたい。人気の「太秋」は九州産地が台風被害をうけたことで少なめ。
ぶどう類		3,127	97	2,678	710	103	719	137	4.4	長野、岡山、山梨産が中心となる。玉張り良く、大房の仕上がり。生育は前進気味で前年よりも早めの出荷ペースとなっている。8月まで続いた高値は落ち着いてきたが、SWIにかけては売り込みも活発で荷動きは堅調。食味は充実しており、引き合いが強い要因の一つになっている。